

ネットコンファレンスの日時、説明者他：

日時	2021年8月5日 15:00～16:00
説明者	コーポレートコミュニケーション部 IRグループリーダー 小池 太郎
説明資料	2021年度第1四半期決算の概要 及び 2021年度業績予想の概要

Q&A

■モビリティセグメント

Q1. モビリティの上方修正の要因について説明して欲しい。

A1. 販売については、1Qで半導体不足の影響を受け自動車用途は減少しましたが、2Qに向けては回復を見込んでおり、上期通してみると前回予想から大きな変化はございません。ICTの販売についても想定通り堅調に推移すると見込んでいます。交易条件については、原料価格は上昇しているものの、価格改定による採算の改善や在庫評価益により増益を見込んでいます。また、持分法についても改善しています。

Q2. モビリティの21年1Q（4-6月）から21年2Q（7-9月）にかけて増収、減益となる背景について説明して欲しい。

A2. 原料価格上昇による交易条件悪化に加え、事業活動正常化に伴う開発費用を中心とした固定費の増加を見込んでいます。

Q3. 海外PPコンパウンドの21年1Q（4-6月）及び21年2Q（7-9月）にかけての販売動向について説明して欲しい。

A3. 21年1Qについては半導体不足の影響で20年4Qから販売は減少しました。21年2Qにかけては1Qからの回復を見込んでいます。一方、ASEANでは足元の新型コロナウイルス感染症の再拡大により自動車生産台数の減少が懸念されており、状況を注視してまいります。

Q4. EUVペリクルの立ち上げ状況及び販売状況について説明して欲しい。

A4. EUVペリクルは商業運転開始しており、今後販売は増えてくる見込みです。

■ヘルスケアセグメント

Q5. ヘルスケアの21年1Q（4-6月）と20年1Q（4-6月）との比較において販売数量差の内訳について教えて欲しい。

A5. ビジョンケアと歯科材料で半々程度です。

Q6. ヘルスケアの21年1Q（4-6月）から21年2Q（7-9月）にかけて減益となる背景について説明して欲しい。

A6. 歯科材料の不需要期での販売減少、不織布での原料価格上昇による交易条件の悪化、ビジョンケアでの定修による影響等により減益を見込んでいます。

Q7. 不織布の21年1Q（4-6月）と20年1Q（4-6月）との比較において減益の内訳について教えて欲しい。

A7. 原料価格上昇による交易条件悪化及び医療用ガウン等の減少による販売構成の差により減益となりました。

Q8. メガネレンズ材料の販売状況及び北米市場への展開状況について説明して欲しい。

A8. 販売は引き続き堅調に推移しています。また、北米市場への展開についても予定通り進展しています。

Q9. 歯科材料における業績動向について教えて欲しい。

A9. 販売は堅調に推移してきており当初想定を上回る水準となっています。足元の業績改善は既存製品の需要回復に

よる影響が大きいです。3D プリンタ等のデジタル製品への対応についても進捗しています。

■フード&パッケージングセグメント

Q10. フード&パッケージングの 20 年 4Q (1-3 月) から 21 年 1Q (4-6 月) にかけて農薬が不需要期となるが、増益となる背景について説明して欲しい。

A10. 農薬は国内不需要期となりますが、イクロスの販売は堅調に推移しました。また、IFRS 会計基準により租税公課は計上時期が 4Q となっており、1Q は租税公課の計上がない為固定費は減少しています。

Q11. フード&パッケージングの包装用フィルムについて価格改定の取組状況について説明して欲しい。

A11. 1Q から 2Q にかけても原料価格は上昇が見込まれる為取引条件は悪化しますが、採算改善の為に価格改定についても取り組んでいます。

Q12. 農薬及びイクロスの販売状況について説明して欲しい。

A12. 農薬については、ジノテフランはブラジルでの販売は引き続き堅調に推移、テネベナールも登録国の拡大が進んでおり拡販が見込めます。イクロスについても販売は堅調に推移しており、21 年 2Q にかけても 1Q から増販を見込んでいます。

■基盤素材セグメント

Q13. 基盤素材の 20 年 4Q (1-3 月) から 21 年 1Q (4-6 月) にかけて増益となる背景について説明して欲しい。

A13. BPA 及び AC の市況改善、市況改善による持分法投資損益の改善に加え、ナフサ価格上昇による在庫評価及び販売価格フォーミュラの期ずれを合わせた影響により増益となっています。また、IFRS 会計基準により租税公課は計上時期が 4Q となっており、1Q は租税公課の計上がない為固定費は減少しています。

Q14. 基盤素材の前回公表値から取引条件の改善となる内訳について説明して欲しい。また、21 年 1Q (4-6 月) から 21 年 2Q (7-9 月) にかけて在庫評価益の解消について説明して欲しい。

A14. 前回予想から取引条件の改善の内訳は、BPA の市況改善、ナフサ価格上昇による在庫評価及び販売価格フォーミュラの期ずれを合わせた影響です。また、2Q にかけて原料価格は大きく上昇しない想定であるため、1Q に比べ在庫評価益は減少する方向で見込んでいます。

Q15. BPA の市況前提について需給環境を踏まえ説明して欲しい。

A15. 20 年 4Q から 21 年 1Q にかけては主に北米寒波による影響で市況は上昇しました。一方、2Q にかけては北米寒波による影響も終息し市況は下落するものの、引き続き需給環境がタイトな中、アジアでの定修やコンテナ不足の影響等により当初想定よりは高い水準で推移すると想定しています。

■全社

Q16. 通期についても前回から増益の見通しとなっているが、株主還元の方針について説明して欲しい。

A16. 「DOE3.0%以上、総還元性向 30%以上」を目指す方針としており、21 年度業績見通し、株価水準の動向、市場環境を勘案し還元の方策を検討していきます。

Q17. 下期の業績動向についてどの様に考えているのか説明して欲しい。

A17. コロナ感染症再拡大のリスクについては引き続き注視していかなければなりませんが、現時点では販売面は堅調に推移すると想定しています。一方、原料価格や市況動向については見通しづらい状況です。

Q 18. 実効税率が低いのはなぜか。

A 18. 利益の構成差、及び持分法の改善による影響です。

以 上